

## 1年越しの舞台「私を代わりに刑務所に入れてください」

有料会員記事

編集委員・大久保真紀 2021年6月24日 10時00分



運営する施設で非行少年たちと話をしている野田詠氏（中）と大久保真紀（右）の撮影



非行少年の立ち直りを支援する大阪府東大阪市のNPO法人チェンジングライフ理事長の野田詠氏（45）の自叙伝を原作にした舞台「私を代わりに刑務所に入れてください」が7月2～4日、東京・新宿シアターサンモールで上演される。配信による観劇もできる。

もともとは昨年4月に上演予定だったが、新型コロナウイルス感染対策のための緊急事態宣言が出たため延期していた。野田さんは元暴走族で、少年院経験者。出院後、牧師になり、これまでに約170人を支援してきた。

タイトルの「私を代わりに刑務所に入れてください」は、野田さんが少年審判で少年院送致を言い渡されたときに、母親が裁判官に泣きながら叫んだ言葉だ。

舞台は、野田さんをモデルにしたNPO法人理事長の森田誠慈の生い立ちをたどりながら、運営する自立準備ホームに少年院を出て身を寄せた少年たちが悪戦苦闘しながら更生を目指す日々が笑いとともに描かれる。少年たちは発達障害や虐待の経験などさまざまな問題を抱え、傷つき、涙を流しながらも、森田や保護司など周囲の人たちからの支援を受けて前を向いていくという内容だ。

主演は吉本興業所属のバッドボーイズ佐田正樹さん（42）。佐田さん自身、暴走族だった17歳のときに逮捕されて鑑別所に送られたことがある。「物語はほぼ実話。少年たちを支援する活動を知ってもらいたい」と言う。

舞台化を発案したのは、チェンジングライフの理事を務める絹田至さん（48）だ。自身は東京で牧師をしているが、野田さんの自叙伝を読み、「自分にはできない活動だけれど、社会に広く知られるべきだ」と思った。

温泉施設に住み込みで働いて資金を作り、運営する教会でクリスマスに来てもらっている俳優らに協力を求めた。昨年の準備と公演の延期でためた資金は使い果たしたが、今年は補助金を獲得、上演にこぎつけた。「少年に寄り添う大人がいれば犯罪は減る。簡単なことではないけれど、それを伝えたい」と熱く語る。

野田さんは「最初は止めてくれと言ったんですが……」と照れつつも、「加害少年の中の被害者性があるがままた見てほしい。加害者が更生すれば被害にあう人は減る。一人ひとりがそのためにちょっとでも何かできれば」と話す。

2、3日は午後2時と午後7時、2日は公演後に野田さんと佐田さんのトークショーがある。4日は午後3時。一般席5千円、配信2千円。会場では感染対策として消毒や換気を徹底するという。

問い合わせは、舞台製作委員会（03・5927・9579、[watashiwo2021@gmail.com](mailto:watashiwo2021@gmail.com)）へ。（編集委員・大久保真紀）